

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900079	事業の開始年月日	平成21年3月1日
		指定年月日	平成21年3月1日
法人名	有限会社ばすてる		
事業所名	どんぐり庵さんだ		
所在地	(243-0211) 神奈川県厚木市三田742-27		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年4月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1492900079&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで暮らすことになってもその人らしい生活を送ることができるようにこころがけている。近所の徒歩圏内にスーパーや衣料品店、レストランがあり、日々の買物や行事の際に必ず利用者様と一緒に外出するよう心がけ、積極的に活用している。日常における料理や洗濯、掃除等に関しては職員のみで決まらず、利用者様個人の力に応じた内容で一緒に行かない、たとえ少しの時間でも関わりをもち、また役割を持って生活して頂けるよう努めている。また、入居者様が健康に暮らせるように、かかりつけ医や看護師に協力してもらい、日々の健康面のチェックや、何か変化があった時は即座に対応できるよう日々の情報交換や、入居者様の観察に力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成24年2月1日	評価機関 評価決定日	平成24年3月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は小田急本厚木北口下車、本厚木1番乗り場より半原行・まつかけ台行・青年の家行・鳶尾団地行・宮の里行 - 宿原入口下車 徒歩約5分または、厚木バスセンターより三田経由愛川町役場行 - 山王坂下車約徒歩4分の場所にあります。施設長は心理学を学んだ明るい青年で、利用者には大変好かれています。利用者の認知度が進んでも、退去となった例は、今までにはありません。困難ケース(1日に何度も外に出て行く、近所の庭に入り花を摘み取る、よその家に入ってしまう)などの例はあるものの、職員が親身になって支援しています。

< 優れている点 >

看護師、提携医とも相談の上、利用者の精神薬常用者もホームとしてできる限り、職員の支援により減らせるように努めています。睡眠薬を離せなかった人も、心地よくなる音楽や飲みものを把握する事により、薬なしで眠られるようになってきています。

< 工夫している点 >

認知度が進んだ人は、行事の時の写真を見て、「どこなの? だれなの?」と混乱する例があります。また、写真を見て思い出せないことで不安感を抱くケースもあります。それらを鑑みて、飾る際には貼る場所や写真の内容を検討しています。また、家族宛に、生活の様子を知って頂くために、写真の内容を沢山貼り付けた文書を用意し送っています。寝たきり状態の入居者の方にも決して居室に一人きりにせず、日中はリクライニング車いす等を利用して、フロアに来て頂き、キッチンで洗う音や刻む音など生活音を感じて生活できるよう、配慮しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐり

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は掲示しており把握している。	現在の「あなたのできることを探していきます」という理念は、法人として作ったものです。グループホームの管理者は、職員の意見をまとめて、地域密着の気持ちを込めた新しい理念を作ろうとしています。	現管理者と、職員で意見を出し合い、地域に密着した「どんぐり庵さんだ」にふさわしい理念を作り、利用者や家族にも浸透することに期待します。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、夏祭り、落語会等に参加させて頂いた。また、回覧板を通じ、情報の共有を図らせて頂いている。	地域にあるお年寄りが集まる会、歌や体操をしたり、御飯を食べる「お楽しみ会」のお誘いを地域の方からもらっています。近くの小学校の運動会を、希望者で見に行きました。近所の子もたちが、遊びに来てくれます。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や、見学に来られた地域の方々にはその都度説明を行なっている。運営推進会議において、地域の方々に認知症の対応についての講義をしてほしいとの相談があり、今後行なう予定である。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災、地域行事に関することや、施設内の居心地の良い環境作り等の助言を頂き、日々のサービス向上に活かしている。	今年度は一度実施済みで、3月にもう一度予定しています。自治会長、民生委員、大家さん、地域包括支援の職員とグループホームの職員で開催しています。今年度は、施設の紹介で終わってしまいますが、来年度から年に6回の開催を予定しています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営状況や入居状況など様々な相談をさせて頂いている。また、施設内での事故により受診をした際には報告書を提出し、助言を仰いでいる。	厚木市の介護保険事業連絡会に出席し、行政関係者と話す機会があります。行政にゴミの出し方で相談し、一般ゴミと同じ方法で回収出来る了承を得ました。また、市議員と意見を交わす会を年に1度設けており、情報交換の機会にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては職員全員が理解し気をつけているが、職員が付いて行く事が出来ないタイミングで外出の希望があった時など制止することがあるが、時間をずらして行けるようにはしている。	「座っていてね」「行っちゃだめ」などの言葉の制止について、ミーティングで確認しています。玄関の鍵は防犯上掛けていますが、自分で開けて日に数度出て行く利用者もいます。職員は見守りながら、利用者に向けた支援を行う様心掛けています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	もちろん虐待については全員が注意を払っているし、行なっていないが、法律については知らない職員もいるかも知れない。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は作れていない。制度の存在自体をよく知らないかも知れない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約項目に関して、時間をかけ丁寧に説明を行ない、不安や疑問点をその都度確認しており、納得の上で契約の締結や解約を行なうよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡を通して意見や要望を聞く機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。	他の利用者から「ご飯を手づかみで食べている」と言われた事でおにぎりにしたり、水にこだわる利用者の為に、ビニールプールに水を溜めて皆で楽しむなど工夫をしながら利用者の意見も運営に反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員それぞれの意見や提案を取り入れ、日々の業務の見直しや工夫を行なうことの重要性を説明し、普段から話を聴く機会を設けるよう努めている。	レクリエーションや誕生日などは企画係を決めて、その職員のアイデアに任せる様にしました。施設長は、待遇面に関しては、職員が直接代表に言える様な仕組みにしています。結果、夜勤手当などで改善されました。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表等で職員個々を把握し、年に1回は給与見直しの機会を設けている。パートからの正職員登用も行なっている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの力に応じた外部研修への参加をすすめている。内部研修も、その時々に必要なテーマを行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームに限らず、他サービスの方と接触できる場を提供できるような心がけている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人に面接を行ない、困っていることや不安等について尋ねている。できる限りリラックスした状態でお話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて伺っている。その際、ご本人の前で話しにくい内容等は別室にてお話をしたり、後日電話にて連絡をとるなど、できる限り不安な点や要望が聞けるよう工夫している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を通じて、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、ご家族様にご協力していただきたいことに関して説明を行ない、本人にとっての良いサービスを検討している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介護するだけでなく、毎日の生活や家事で知らない事を教えて頂いたり行なって頂いたりしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側で行なえない事・用意できない物などが有る時・何か変わった事が有る時はご家族に相談している。ご家族からお話があれば伺っている。疎遠なご家族にも連絡はしているが、もっと働きかける余地はあるかも知れない。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方と行事に参加し交流を深めるよう積極的に支援している。入居者の希望する場所、馴染みの場所には、車を利用して行くように支援を行っている。	入居する前の友人が遊びに来てくれる例はあります。家に行きたいという利用者には、職員が同行し、庭の草むしりをしてきました。もと幼稚園の先生をしていた人の誕生日には、近くの保育園へ職員と一緒に見学に行き喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の把握は出来ており、入居者の方々に一緒に買い物や共同作業等を行い協力していきながら支援を行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設に訪問したり、家族や転居先の施設の連絡には応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の様子を観察し、本人に話を聞いたり、家族に相談するなどして、把握するよう努めている。また、表現が困難な方には、どのような意向を持っているのか出来る限り探っていくように努めたい。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方をご本人・ご家族や、知人の方などから話を聞いたりして、馴染みの場所へ行ったり、これまでの趣味の道具をご家族に持ってきて頂いたりしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中に、家事の手伝いやレクリエーションなどを織り交ぜていく中で、有する力を確認したり、バイタルの計測や、申し送りでの情報交換、様々な記録等を用いて本人の現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	月に一度ミーティングを実施。課題について職員間で話し合い結果をプランに反映させている。また次のミーティングでアセスメントを行いプランの見直しを行っている。	居室にこもりがちな人には、メモ帳作りや段ボールたたみを頼むなど、個別のプランになっています。本人の希望も聞いて、機械いじりが好きな人には、テーブルや椅子の点検を頼むなどもプランされています。カンファレンスの強化など改善しています。	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	職員の側からの一方的な記述が多く（落ち着きがなかった等）なぜその様な状況になったのか考察されていない。毎朝の申し送りや、記録で情報を共有している。		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	面会に来られたご家族とはできるだけコミュニケーションを取る様に心がけており、その際ご家族の意見や希望を取り入れる様にしている。あまり面会に来られないご家族に対しては、受診前後の報告や「 <input type="text"/> を持ってきて欲しい」など働きかけている。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	夏祭りや落語会等、地域の催しには参加している。落語会の様に催しによっては参加出来る入居者様が元気で自立した方に限られている。入居者様の個別の状況にあわせた活動や参加のあり方を考えたい。		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	受診時には家族に連絡し了解を得てから受診しており受診後には結果を報告している。また、その際ご家族からの疑問や意見をお聞きし必要に応じて主治医に相談している。	提携医がかかりつけ医になっている人がほとんどで、2週間に一度全員が訪問診療を受けています。精神科の薬を飲んでいた人で施設に来てから薬を離れることができた方もいます。眠れなかった人も、この音楽で眠れる、あたたかい飲み物で眠れるなどのおのおの方を把握しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体温や血圧はもちろん、その他身体状況の変化に合わせて看護師等に相談し、受診の必要性がある時は即座に対応している。また、便秘がちな入居者の下剤量を日々相談し、内服支援している。		
32		利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、本人に会いに行き、様子を観察したり、病院関係者から情報を収集している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者に対し事業所で出来る対応を家族に説明、共有することが出来ている。またその利用者に対する職員の意識をカンファレンス等を用いて改革出来るよう努めている。	ターミナルケアについては、家族の意向を聞き、代表（看護師）から指示をもらって全職員でぎりぎりまで事務所で看た例があります。この経験から看取りに関して職員は今後の課題として取り組む意欲を持っています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未だ不十分ではあるが、研修への参加を始めるなど実践力の向上に努めている。		
35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	正職員は防火管理の講習を終えている。避難訓練を通して知識を共有したい。	避難訓練は年に2回実施しています。消防署にも連絡していますが、実現出来ませんでした。今まで、地域の方との連携はありませんでしたが、今後は運営推進会議を通して地域の方にもお願いしていく意向です。備蓄についても、代表者と話し合う意向です。	避難訓練は、火事や地震、夜間などを想定した訓練を行うことも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ案内や、排泄確認等は声の大きさや聞き方に気をつけている。また、入浴介助の際は、同性介助を心がけている。	食器洗いなども、職員から「洗っていただけますか？」と意志を確認してからお願いするようにしています。館内を徘徊する人には、モップを持ってもらって「いつもお掃除、ありがとうございます」と、お礼を言うなど、人格を尊重した言葉かけをしています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望される方には出来ているが、そうでない方には表情や動作等で対応している。ただ、どうしても意思表示できる人の希望に偏りがみられるので、一人一人の希望が把握できるように努めていきたい。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室内で入居者同士で談笑されたり、塗り絵をされる方には、自由にその時間を過ごしてもらっている。夕食後に入浴希望があれば支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、お洒落は個人に任せていることが多いが、声かけや気配りはしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから片付けまでの一連の行為を、全て入居者を一緒に行なうよう心がけている。そのような関わりを継続する中で、入居者は積極的に参加するようになり、役割を持てるようになってきた。	調理や食器洗いを手伝ってくれる利用者がおせちを作ってくれました。お寿司をとったり、回転寿司やファーストフード店、レストランで外食する楽しみもあります。駐車場でバーベキューをしたり、サンマを焼いて食べる楽しみも設けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日によって体調が違うため個人の状態に合わせた水分や食事の提供を心掛けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口から食事が出来るのは当たり前だが、高齢者にとっては素晴らしいことなので、いつまでも口から食べていただく事が出来るよう日頃の口腔ケアを心掛けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄をして頂く事を心掛けてはいる。タイミングが合わず出来ない事もあるので、排泄リズムやサインを把握できる様に努めている。	トイレでの自立を目標に排泄リズム、声、動作、表情等の仕草を職員は共有しています。夜間は、ポータブルトイレ、リハビリパンツを使用したり、声掛けによる誘導をしています。失禁などの場合は、他の人に気づかれない様に更衣や清拭に気を配っています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や排泄時の腹部のマッサージ、食事やジュースなど便秘にならないように入居者に提供している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一応入浴の予定は組んでいるが、体調やその日の気分などで入浴しないこともある。入浴予定日ではなくても希望があったり、声をかければ入浴したりする方もいるので予定にとらわれないようにしている。	週2回を基本としていますが希望に応じて対応しています。浴室は個浴で手すりを設置し、シャワー浴も出来ます。季節感を大切に菖蒲湯、柚子湯等を行っています。入浴に消極的な方には、声掛け、時間を置き勧め、職員を変える等で入浴の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は部屋を暗くし、空調・湿度管理などに気を付けている。また、こまめに訪室し、本人の状況を確認している。日中の活動量が多く疲労が見られたときには、フロアのソファや居室を利用して休息してもらうよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はすべて職員が管理し、服薬の都度入居者に出している。薬の変更があった場合は、職員全員が内容を確認しバイタルサインの測定などを行い変化の確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事作り、掃除、洗濯は入居者が中心となり行なっている。また、外食やドライブなど外食の機会を作り気分転換を図れるよう支援し、買物の際には、気に入った食材やお菓子を購入し、食事やおやつ時に利用できるよう心掛けている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する方は毎日散歩へ行っている。外気浴やドライブ、地域のイベントなど、なるべく戸外に出れるよう支援している。	毎日のコースはご近所や付近の公園です。3～4人でドライブで買い物、お花見、地域の盆踊り、落語会へ出掛けなどの気分転換があります。これらの行事には、利用者が職員と一緒に外出し、楽しみを共有する良い機会となっています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお金を所持している。他の方は預かり管理して、ご家族に用途の相談・報告をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今まで手紙を希望される入居者はいなかったが、年賀状を家族に書いている。電話はご希望に応じて、かけることもある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花を植えたりフロアには手作り季節カレンダーをかけたたりしている。また、温度や湿度を調整し、心地よく過ごせるよう努めている。	玄関周りにつつじやプランターの草花で、廊下、階段踊り場には沢山のちぎり絵作品や、手作りカレンダーが飾られています。風邪予防に温湿度に気を配り快適な環境づくりを心掛けています。庭からや窓越しに大山の眺望を楽しむことができます。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机や畳・ソファがあり、それぞれ好きな場所で好きな方と過ごして頂いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の好みで写真や絵画・作品など壁にかけたりしている。使い慣れた布団ベッド、タンスを置いている。	居室は10.35㎡（約6畳）で冷暖房、クローゼットが備え付けられています。その他使い慣れた備品や縫ぐるみ、持ち物が置かれ、壁に家族の写真や絵などが飾られて暮らしやすい様にレイアウトされています。なお安全上から火気、危険物等の持ち込には制限があります。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内や廊下に手すりを、歩行や立位保持の際に利用できるよう設置している。		

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐら

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分も含め、理念を聞かれてすぐに答えられる職員は少ないように思うが、職員それぞれが入居者様の出来る事の理解や「～したい」と言った希望に耳を傾けていると思う。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、夏祭り、落語会等に参加させて頂いた。また、回覧板を通じ、情報の共有を図らせて頂いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や、見学に来られた地域の方々にはその都度説明を行なっている。運営推進会議において、地域の方々には認知症の対応についての講義をしてほしいとの相談があり、今後行なう予定である。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災、地域行事に関することや、施設内の居心地の良い環境作り等の助言を頂き、日々のサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営状況や入居状況など様々な相談をさせて頂いている。また、施設内での事故により受診をした際には報告書を提出し、助言を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ではないが、言葉による制止はある（座っていて、行かないで等）		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を作れていない		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作れていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約項目に関して、時間をかけ丁寧に説明を行ない、不安や疑問点をその都度確認しており、納得の上で契約の締結や解約を行なうよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡を通して意見や要望を聞く機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員それぞれの意見や提案を取り入れ、日々の業務の見直しや工夫を行なうことの重要性を説明し、普段から話を聴く機会を設けるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表等で職員個々を把握し、年に1回は給与見直しの機会を設けている。パートからの正職員登用も行なっている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの力に応じた外部研修への参加をすすめている。内部研修も、その時々に必要なテーマを行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームに限らず、他サービスの方と接触できる場を提供できるような心がけている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人に面接を行ない、困っていることや不安等について尋ねている。できる限りリラックスした状態でお話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて伺っている。その際、ご本人の前で話しにくい内容等は別室にてお話をしたり、後日電話にて連絡をとるなど、できる限り不安な点や要望が聞けるよう工夫している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を通じて、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、ご家族様にご協力していただきたいことに関して説明を行ない、本人にとっての良いサービスを検討している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、買物、日曜大工、裁縫等、基本的に出来る事はしてもらっている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係が密であり、面会も多くケアに対する希望等も聞く機会があるので、こちらとしてもアドバイスやヒントをもらえる。しかし、私物の購入等、こちらがしてしまっていることで更に関わりが減っている可能性があり、今後工夫が必要。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパーに買物に行くとレジの方と話をしている入居者もいる。意思表示のできる方は外出の際に自宅の近くを通ったり、以前行っていたパン屋に行ったりしているが、意思表示のできない方へは不十分。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の並びに配慮している。入居者同士と一緒に料理をしたり、歌を唄って頂けるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了される入居者がいない。往診された場合、現状より悪化しないように支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出等の要望があればドライブや散歩に出るようにしている。その時希望に添えない時は、次の日に支援できるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お誕生日には懐かしく思える場所へ案内をしたり、家族に本人の好みや縁の場所等を聞き、楽しんでもらえるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前は出来た事を勧めても、今は出来ないと拒否される事があるが、断られても声かけをしてチャレンジして頂くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員間では月1回のミーティングで意見を出し合っているが、より良く暮らすためまでには至っていないと思う。専属のケアマネがケアプランやアセスメントを作成し、情報を公開している。その他ご本人様について、困った事や疑問等は申し送りやミーティングで話し合っている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>一日の生活の中で、気になった事、変化についての情報の交換をしているが、職員全員に行き渡っていない事もある。個人記録を使って、本人のその日の様子を毎日記録している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>野外でバーベキューをしたり、外食、ドライブ、餅つき、忘年会、お誕生日会、近隣のお祭りに参加する等して楽しんで頂いている。第三者の企業を利用し、栄養管理の指導を受けたり、出張の医療マッサージを紹介している。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>お手伝いや買物、外出ができる方が偏ってしまっており、その他の方は長時間椅子に座っている事になってしまっているため、その人に合ったお手伝い等をしてもらいたい。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診に行く前に、本人の状況を家族に説明し、承諾をもらってから行くように心掛けている。本人から希望があった場合は、希望を尊重し医師に相談、受診している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で変わった事や、気付いた事はその都度看護師に相談している。受診を受けるよう指示が出た際は、すぐに受診できるよう対応している。		
32		利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、職員がお見舞いに行った時に入院中の状況や様子を伺っている、その情報は、申し送り等で他職員に伝え、退院に備えている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行なっている。本人になにか変化があれば、家族や医師に現状を伝え相談している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員ではないが、応急手当や救命措置の研修に行き、ミーティングで研修内容や感想を発表している、今後も続け全職員が対応できるようにしたい		
35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	正職員は防火管理の講習を終えている。避難訓練を通して知識を共有したい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排便確認時、大きな声で尋ねないように心掛けている。命令調な言葉使いをせず、本人の意志を確認しながら、お手伝いしてもらっている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買物の際、好きなお菓子を選んでもらっている。水分補給時、ジュースか牛乳かを選んでもらっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きなTV番組を見ていて入浴を拒否される時は、時間をあけて再度声かけし、入浴してもらっている。外出願望がある時は、できるだけ希望に添えるよう時間を作っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望があれば早めに美容院へお連れしている。破れた衣類は家族に処分してもらい、季節に合った洋服を持って来てもらうようを依頼している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おにぎりやいなり寿司が好きな方とは、一緒に作り食べる楽しみを作っている。好き嫌いの多い方には、別メニューを用意し気持ちよく食べてもらえるよう工夫している。野菜切りが得意な方には積極的に手伝ってもらい、職員と会話しながら楽しく料理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>月2回の体重測定（内1人は週1回）を行い、必要に応じて食事量を考慮している。水分は時間に関らず希望時には出すようにしており、水分の少ない方にはこちらから促し、脱水等には気をつけている。特に夏場はこまめに声かけをしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>声かけにて歯磨きをしてもらう、義歯のある人は外して歯磨きする、歯間ブラシ、口腔ケア用ガーゼ等も使用する。夕食後ポリデントで消毒し、清潔の保持に努めている。歯科往診時、歯科医からのアドバイスをもらっている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを把握し、早目のトイレ誘導にしたり、リハビリパンツの方も日中にご自分の下着に変える等して対応している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分を多目に摂ってもらったり、トイレで時間をかけて自力排泄を促したり、腹部のマッサージをする。看護師や医師に相談し下剤の調整をしている。オリゴ糖、寒天、牛乳、ヨーグルト等で工夫している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>高橋様は希望にてほぼ毎日入浴している。拒否がある場合は時間をおいたり、職員を代えたり、それでも拒否される場合は無理強いせずに日をずらしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごされている方や、ベッドで休まれている方等、所在だけは把握し、食事やお茶、入浴等の時間には声かけしている。夕食後パジャマに更衣してからは個々に就寝している。居室がわからない方には職員が付添い就寝しやすい環境作りをしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬の目的や副作用までは理解できていない。服薬時は間違いのないように一人ずつ薬をケースより出し、入居者の掌に渡し、口に入れ、飲み込むまで必ず目視し、チェックをしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、食事作り、掃除、買物等お手伝ってもらっている。元気な方や車椅子の方でも、職員の人数や外出できる要素が揃った日には気分転換を兼ねて入居者数人をドライブへ誘っている。美容院にも行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日外出願望の強い方には職員が付き添い散歩へ行っている。職員の数、車が空いている日は数人をドライブへ誘っている。母の日、餅つき等家族と一緒に行動、地域の盆踊り、落語会に参加している。施設全員でお花見にも行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお預かりしたお小遣いは事務所で保管。美容院の希望がある時は職員が預かり、支払っている。そのお小遣いとは別に、自分で管理、所持している入居者には買物時の見守りのみ行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は、先方の都合等も配慮し電話をして頂くようにしている。毎年、年賀状は出してもらっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔に、特に水周りは衛生面にも注意し、心地よく生活してもらえるよう配慮している。特に冬場は風邪予防の為に室内の換気をする等の工夫をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室より共用空間で過ごす時間が多い為、混乱を避けるため座る位置は予め決めている。気の合う方向土席を近くして、楽しく過ごせるよう工夫している。周囲の刺激で落ち着かなくなってしまう場合は散歩やドライブに誘う等工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使っていた家具や食器、ぬいぐるみ、家族からのプレゼント等心安らく物を生活に支障がないよう配置を考え、居室に置いている。お花や絵なども置いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの掃除やテーブル拭き等できる方には積極的にしてもらっている。衣類の着脱なども入浴時など終わるまで待ったり、抜けている所は声かけをしながら補う等の工夫をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束に関する知識に欠けており、外に出してしまう入居者に対して、「行かないで」を声をかけることがある。また、職員が忙しい時間帯に、転倒の危険性の高い入居者に「座ってて」と言ってしまうことがある。	身体拘束に関する知識を学ぶ。また、適切な対応について検討するとともに、入居者の思いの把握に努める。	ミーティングにおいて、身体拘束マニュアルの内容について取り上げる。また、どうして外に行きたいのか等の把握を日々の暮らしの中で検討し、その都度職員間で情報共有を行なう。	3ヶ月
2	20	入居者それぞれの馴染みの場所、関係について把握していない。誕生日の時に、たまにご家族に相談することはあるが、その時だけの情報に留まり、その後利用できていない。	入居者それぞれの馴染みの場所や関係について把握するよう努める。また、なぜそれがケアの中において必要なのかを検討する。	馴染みの関係や、場所の支援の意味に関してミーティング内で話し合う。住んでいた家の周りに外出し、本人から馴染みの場所が出てこないか探る。また、職員間で今まで知り得ている情報を再確認する。ご家族に面会時等の機会を利用して尋ねる。毎月ごとに入居者3名ずつ行なう。	3ヶ月
3	23	入居者がどのような暮らしに対する思いや希望を持っているのかが把握できていない。特に、表現が困難になっている方々はできていない。	入居者それぞれの暮らしに対する思いや希望を把握するよう努める。	ミーティングにおいて、現在スタッフが知り得ている情報をまずは共有する。翌月のミーティングにおいて、それ以外の関わりから発見したことについて、スタッフ1名につき、最低2個は発表する機会を設ける。毎月ごとに入居者3名ずつ行なう。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。